

目標達成計画

作成日: 平成 24 年 10 月 18 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新人職員を含め、全職員が事業所の理念を十分に把握、又は理解出来ていない。	全職員が事業所の理念を理解、共有し理念に沿った支援が出来る。	毎朝の朝礼や職員全体会で、理念を唱和したり、事例を通してながら、理念に込められた意味を深めていく。	12ヶ月
2	23	新人職員を始め、職員がセンター方式についての理解と活用が、まだ不十分である。	センター方式の理解と記入・活用が出来、認知症をもつご利用者の全体像や思いに近づき支援出来るようになる。	新人研修の年間計画の中で、「認知症の理解」と「センター方式の学習会」をテーマに挙げ、チームの介護力をリードしていくため、出来る限り多くの職員が参加できるように呼びかけをしていく。必要に応じ、個別の学習会も行っていく。	12ヶ月
3	63	前回、ご家族満足度アンケートの結果より「職員の名前がわからない」「連絡した内容が他の職員に伝わっていない」等のご意見があったため、ネームの着用や玄関に職員の写真入りで名前を掲示しているが、まだまだ、不十分である。	ご家族の要望や話に耳を傾け、信頼関係づくりに努める。	引き続き、職員はネームの着用を徹底する。各ホームの玄関に職員の写真と名前を掲示し、新人職員や職員の移動があった際には、家族会等で紹介していく。ご面会時も本人の自己紹介を行っていく。情報伝達手段として、確認簿や申し送りノートを活用し、出勤時には必ず目を通し捺印する。	12ヶ月
4	34	毎月、気づきシートの中にある「ヒヤリハット」の記入が少なかった。	ヒヤリハット啓発活動を取り入れ、事故の前の「気づきの芽」を育て、事故防止に努める。	ヒヤリハットや気づきの必要性を朝礼や研修などで事例を通して確認し合う。毎月のグループホームの研修会で、ヒヤリハットを各自1枚以上出し、意見交換を行い問題解決していく。	12ヶ月
5	4	運営推進会議をとおして、地域住民の方々と互いに理解、支援が出来る様、より地域福祉の向上に寄与していきたい。	運営推進会議の充実を図る。	これまでの委員に加えて、校区の消防、警察、コンビニ等の方々に委員として随時メンバーに加わっていただき、意見交換を行っていく。「ふれあいホームあやの里」を地域に開放し、活用して頂けるように働きかけを行う。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。